

この度はJTC工具を御買上頂きまして、誠に有難うございます。  
本製品をより安全・適切にお使いいただくために この取扱い説明書をお読みください。  
取扱い説明及び表示の注意事項や使用方法は十分に理解した上で正しくお使い下さい。  
この取扱説明書はお手元に大切に保管ください。

## 危険

作業場所の注意：ジャッキが転倒したり、地面の沈み込みの恐れがある軟弱な地面、  
凸凹の地面、傾斜のある地面等には設置しないでください。転倒や落下等で重傷、死亡事故の原因と  
なります。必ず固く平らな場所で行ってください。

作業者の注意：作業される方は必ず御使用前に取扱い説明書を熟知し本製品の使用方法をよく理解して  
ください。さらに各部の操作に慣れ、圧力の調整作業をゆっくりと慎重に行える方が作業してください。  
不慣れな方は重傷、死亡の事故の原因となります。本体の分解、修理、改造はしないでください。  
ジャッキアップ状態で車の下での作業は厳禁です。死亡または重傷の危険があります。

## 警告

- ・本製品は、乗用車をジャッキスタンドで保持させる為に上昇・下降させる物です。
- ・ジャッキアップ状態で長時間の保持、作業、洗車等には使用できません。
- ・本来の用途以外で使用すると、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・誤った使用方法により生じた、商品破損、人体への傷害、物品への損害、その他のいかなる損害に  
対しても、当社では一切の保証、並びに責務を負いかねますので、ご了承ください。
- ・使用前や定期的に損傷、破損、作動不良、異音、油圧オイルの漏れなどの異常がないか点検してください。
- ・使用中、損傷、破損、作動不良、異音、オイル漏れなどがある場合は、ただちに使用を中止してください。
- ・異常がある場合、お買い求めの販売店までお問い合わせください。
- ・作業中、作業手順や周辺の状態への安全確認を怠らないようにし、事故に注意してください。
- ・使用者以外、使用場所や保管場所に近づけないでください。
- ・特に子供や幼児は、危険な行動をとることがあるので、絶対に近づけないでください。
- ・直射日光、暖房器具や温度上昇する機器の側で使用しないでください。
- ・本製品は、屋内専用です。屋外での使用は止めてください。
- ・屋外での使用は、本体故障、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・能力を超える使用はしないでください。破損及びケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・設置場所の作業環境温度は 0℃～ 40℃以内です。0℃以下はオイルが硬くなり作動不良の原因となります。
- ・設置場所はチリやホコリが多くある場所に設置しないでください。シリンダーやポンプに  
ゴミが付着するとオイル漏れの原因となります。
- ・水気のある場所、水が掛かるような場所に設置しないでください。
- ・過負荷を掛けないでください。能力以上の過重を掛けると故障や事故に繋がる恐れがあります。
- ・本製品で長時間ジャッキアップしないでください。故障や事故に繋がる恐れがあります。  
ジャッキアップしたら速やかにジャッキスタンドで車両を固定してください。
- ・車のブレーキ及びタイヤにストッパーをかけて使用しないで下さい。上昇作業中に受金が外れ車の落下の  
危険があります。

# 1 概要

## 製品説明

本製品は、車両の片側を持ち上げるように設計されていますが、支えることは出来ません。ジャッキアップ後は、適切な定格のジャッキスタンドで荷重を支持する必要があります。

## 仕様

容量：2トン  
最低位：70mm  
最高位：600mm  
全長：830mm  
重量：44.5 kg



## 2 安全に関する情報

**重要:**この取扱説明書をよくお読み下さい。安全な操作のための必要事項に注意して下さい。このジャッキは、使用目的に合わせて正しく、丁寧に使用して下さい。この取扱説明書はいつでも使用できるように保管して下さい。

本製品をご使用の際は、人身事故や物的損害の発生を防ぐため、必ず全ての注意事項をお読みになり遵守して下さい。

本製品の安全でない使用やメンテナンスの不備による損害や負傷について、当社は責任を負いかねます。本製品の安全でない使用、メンテナンスの欠如、または誤った製品使用による損害や傷害について本製品を使用したことにより生じた損害について、当社は一切責任を負いません。安全上の注意や用途について不明な点がある場合は、弊社にお問い合わせください。

## 警告

- 2.1 適当な作業場所にジャッキを設置する。
  - 2.2 毎回使用する前にジャッキを点検して下さい。損傷、改造、状態が悪い場合、作動油が漏れている場合、金具や部品の緩みや欠落で不安定な場合は、ジャッキを使用しないで下さい。また、金具や部品の緩みや欠落により不安定な場合は使用しないで下さい。使用する前に修正して下さい。
  - 2.3 ジャッキは、水平でしっかりした地面、できればコンクリートで使用して下さい。タール舗装はジャッキが沈む可能性があるため、避けてください。車両の車輪を固定してください。
  - 2.4 車両のハンドブレーキが作動していること、エンジンのスイッチが切れていること、トランスミッションがギア(オートマチックの場合は「パーキング」)に入っていることを確認する。
  - 2.5 車両の傾斜を許容するため、ドア、壁等の静止物との間に0.5m以上の距離を確保すること。
  - 2.6 ジャッキの使用中は、関係者以外の人は安全な距離を保つようにして下さい。
  - 2.7 車両に同乗者がいないことを確認する。
  - 2.8 車両メーカーが推奨するジャッキアップポイントの下にジャッキを置く(車両整備マニュアル参照)
  - 2.9 リフティングポイントが安定しており、ジャッキサドルの中央にあることを確認する。
  - 2.10 ジャッキの車輪が自由に動くこと、障害物がないことを確認する。
- 危険:ジャッキは持ち上げのみに使用して下さい。
- 2.11 下ろす前に、車両の下に人や障害物がないことを確認する。
  - 2.12 作業を進める前に、車両の下に適切なジャッキスタンドを使用して下さい。
  - 2.13 有資格者がジャッキの注油とメンテナンスを行って下さい。
  - 2.14 使用中は、安全ゴーグルおよび頑丈な作業手袋等の保護具を着用すること。
  - 2.15 ジャッキに使用するオイルは、必ず油圧ジャッキ用を使用して下さい。
- 破損している場合は、絶対に操作しないで下さい。  
訓練を受けていない人にジャッキを操作させないで下さい。  
昇降中に車両を動かしたり、ジャッキで移動させたりしないで下さい。  
燃料、バッテリー液、その他の危険な物質がこぼれるおそれがある場合は、車両をジャッキアップしないで下さい。

適切な定格のジャッキスタンドが正しく設置されるまで、車両の下で作業しないで下さい。  
 ブレーキ液、アルコール、トランスミッションオイルで油圧システムを満たさないでください。  
 油圧ジャッキオイルのみを使用して下さい。安全オーバーロードバルブを調整しないで下さい。  
 航空機用には使用しないで下さい。

2.16 使用しない時は、ジャッキを完全に下げた状態で、安全で乾燥した、  
 子供の手の届かない場所に保管して下さい。

2.17 この取扱説明書で記載している警告、注意、指示は、起こりうるすべての条件や状況をカバーする事は  
 出来ません。使用者が常識的に考え注意しなければならない物であることを理解する必要があります。

### 3 組立

#### 1. 重要な注意事項

運送上の損傷がないか目視で確認して下さい。損傷がある場合は、直ちに運送業者に連絡して下さい。  
 運送時の損傷は保証対象外です。運送中の損傷による修理や交換は、すべて運送業者の責任となります。

#### 2. カートン内の部品を確認する。

すべての構成部品に欠品や損傷がないかを目視で確認して下さい。※図1参照

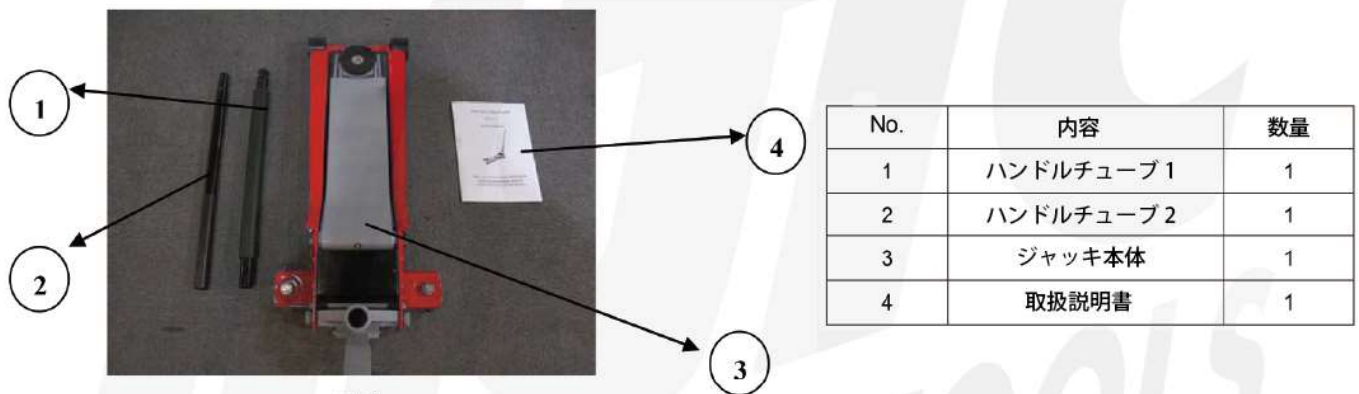


図 1

#### 3.組立

4.ジャッキは次の部品で構成されています。ジャッキ本体、2分割式ポンピングハンドル

5.ハンドルチューブ1のボルトを緩め、上ハンドルを下ハンドルに差し込みます。

ボルト(A)で2個を固定します。※図2参照



(1) ハンドルチューブ 1



(2) ハンドルからボルトを外します



(3) アッパーチューブを挿入する



(4) ボルトを締める



図 2

6. 輸送中はハンドルソケットはナイロン製のサポーターブロックでロックされています。組み立てる前に、ナイロン製サポーターブロックを取り出して下さい。

3.2.4 ハンドルソケットのネジ(B)をハンドルソケットからはみ出さない程度に緩める。



7. ポンプハンドルをハンドルソケット穴に完全に挿入します。写真1

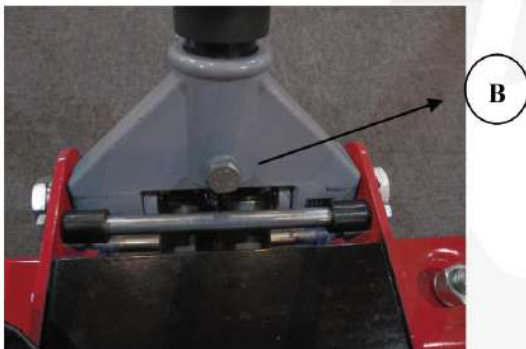


写真1

8. ハンドルがソケットに正しく挿入されていることを確認し、ハンドルソケットのネジ(B)を締めます。ハンドルがスムーズに回転することを確認して下さい。

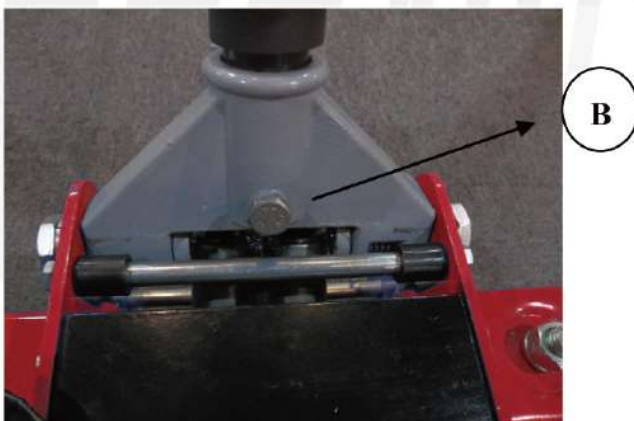


写真2

## 4. 油圧システムのエアー抜き

1. ハンドルを反時計回りに2回転させ、リリースバルブを開きます。写真2
2. ハンドルを素早く4回フルストロークでポンピングします。
3. ハンドルを時計回りに回しリリースバルブを閉じます。
4. ハンドルをフルストロークでポンピングして、10回ポンピングして最大高さに達するかどうかを確認します。

※10回ポンピングしても最大高さに達しない場合は、以下を参照して下さい。

5. ハンドルを反時計回りに回してリリースバルブを開き、リフティングアームを最小の高さまで下げます。
6. 平らな作業台の上にジャッキを置き、ジャッキの前部を持ち上げて、前部が端部より500mm以上高いことを確認して下さい。写真3

7. ハンドルを素早く4回フルストロークでポンピングします。
8. 平らな面にジャッキを置き、リリースバルブを時計回りに回して閉じます。
9. ハンドルをフルストロークでポンピングし、10回のポンピングで最大高さに達するかどうかを確認します。もしそうでなければ、もう一度エアー抜き作業を繰り返して下さい。



写真3

## 5. 操作方法

警告! 使用する前に、1項の安全に関する指示を読み、理解したことを確認して下さい。

重要: 使用前に、作業者はジャッキの溶接部にひび割れがないか目視点検して下さい。

### 1. 車両を持ち上げる

- ※ ジャッキと車両が硬く平らな場所にあることを確認します。
2. 車両のハンドブレーキがかかっている事、車両の車輪が固定されている事を常に確認して下さい。
  3. 車両のマニュアルを参照し、ジャッキアップポイントの位置を決定する。  
ジャッキを適切なジャッキアップポイントの下に置きます。
  4. ハンドルを時計回りに回し、リリースバルブを閉じます。 ※締め過ぎないで下さい。
  5. ハンドルを上下にポンピングして、希望の高さまで車両を上昇させる。  
(フットペダルを足でポンピングしても上昇します。)
  6. 車両メーカーが推奨する位置の下にジャッキスタンドを設置する。
  7. 必ずゆっくりと少しずつハンドルを反時計回りに回し、リリースバルブを開き車両をジャッキスタンドに降ろす。



フットペダル

### 8. 車両を降ろす

9. リリースバルブを時計回りに回し、閉じます。
10. ハンドルをポンプして、ジャッキスタンドから車両を持ち上げます。
11. 車両の下にあるジャッキスタンドを取り外します。
12. リリースバルブを反時計回りにゆっくりと回し、車両を地面に下ろします。

注意: ジャッキを使用しない時は、必ずサドルとラムを完全に引っ込めた状態にして下さい。

注意: 手や足をジャッキのヒンジ機構に近づけないで下さい。

重要: メンテナンスや修理は、完全に資格を持った担当者のみが行って下さい。

## 6. メンテナンス

1. ジャッキは重い荷重を支えるため、潤滑が非常に重要です。汚れや錆が付着していると、ジャッキの動きが悪くなったり、急激に揺れたりして、内部の部品にダメージを与えることがあります。ジャッキの潤滑を良好に保つために、以下の手順を実行してください。

1. リンケージ、サドル、ポンプ機構に潤滑油を塗布してください。



リンケージ (1)



リンケージ (2)

2. ホイール ベアリングと車軸にグリースを塗ります。



ローラーピン (右)



ローラーピン (左)



リフティングアーム

3 すべてのジャッキ表面と警告ラベルを清潔に保つこと。

4. 3ヶ月ごとのメンテナンス

5. 3ヶ月毎に、ポンプに錆や腐食の兆候がないかを確認する。  
必要に応じてポンプを清掃しオイルクロスで拭いてください。

## 7. トラブルシューティング

問題	原因	改善策
ジャッキが最大まで上がらない	1. オイルレベル低下 2. リリースバルブが閉じていない	1. オイルの点検・補充 2. リリースバルブを閉じる
ジャッキが荷重を保持できない	1. リリースバルブが閉じていない 2. 油圧オイルが汚れている 3. ポンプからオイル漏れ	1. リリースバルブを閉じる 2. 3. 代理店または弊社へお問い合わせください。
リフトアームが下がらない	1. シリンダーの不良 2. 部品の摩耗 3. 内部部品の破損 4. リターンスプリングが破損または外れている 5. リフトアームリンケージが曲がっている 6. 油圧系統にエアが残っている	1. 代理店または弊社へお問い合わせください。
リフトアームが最大まで上がらない		1. 油圧システムのエア抜きを参照してください。
リフト性能の低下	1. フルードレベルが低い 2. 油圧ユニットの故障	1. フルードレベルの確認 2. 使用を中止し、代理店または弊社へお問い合わせください。